



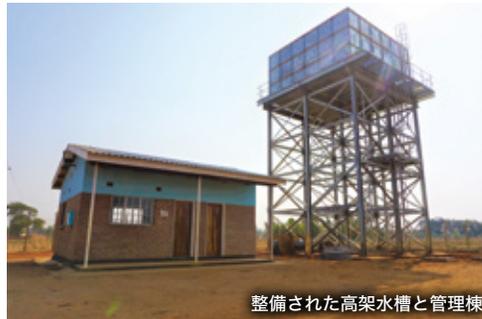
整備された管路系給水施設で安全な水をくむ子供たち



新規に建設された井戸の引渡し。本計画では54本の新規井戸が建設された



既存井戸の改修作業



整備された高架水槽と管理棟



管理棟と並ぶ水槽

< 無償資金協力 >

既存井戸280本の改修と新規井戸54本の建設で約10万人に安定給水

マラウイ
中西部地方給水計画

コンサルティング：(株) エイト日本技術開発
施設建設：鉦研工業 (株)

鉦研工業は1980年代から現在に至るまで、アフリカ各国において数多くの給水施設の建設およびボーリングマシン納入の実績を有し、特にアフリカ南東部に位置するマラウイにおいては、無償資金協力7案件で合計1,249本の井戸建設の実績を持つ。

現在、同国で顕在化しつつある課題は、地方村落部の村人によるハンドポンプ井戸の維持管理面における課題だ。

国連が「水と衛生の10年」と定めた1981年以降、同国全土で数多くの井戸が建設されたが、利用者による修理費用の徴収や、ス

ペアパーツ供給網などが課題となり、故障したまま放置される井戸が散見されるようになった。また、1990年に同国で標準化されたアフリデフポンプは耐用年数が10～15年とされており、将来、故障による「水アクセス率」の低下が懸念されていた。

エイト日本技術開発の調査報告(2012年)によると、ムチンジ県において15～17年を経過した井戸のうち30%が稼働していなかった。稼働している井戸についても繰り返し修理されている形跡があり、将来致命的な故障につながる恐れもあった。

こうした状況を受け、日本政府は無償資金協力「中西部地方給水計画」の実施を決定し、280本の既存井戸の改修および54本の新規井戸の建設を行った。

さらに将来、人口増加による水の需要増が見込まれるムカンダ地区およびサンテ地区においては、高架水槽や管理棟などを有する管路系給水施設を建設し、合計で9万8,000人の水アクセス率の向上に寄与している。

アフリカで豊富な給水施設建設などの実績と経験を持つ鉦研工業の技術力が大いに活かされた事業である。